



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	ヤマハ発動機株式会社コーポレート棟	BEE	3.2	BEEランク	S	★★★★★
------	-------------------	-----	-----	--------	---	-------

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.0	/5	よい
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	4.6	/5	よい
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.5	/5	よい
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0	/5	ふつう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上	ふつう 3 点以上 がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要

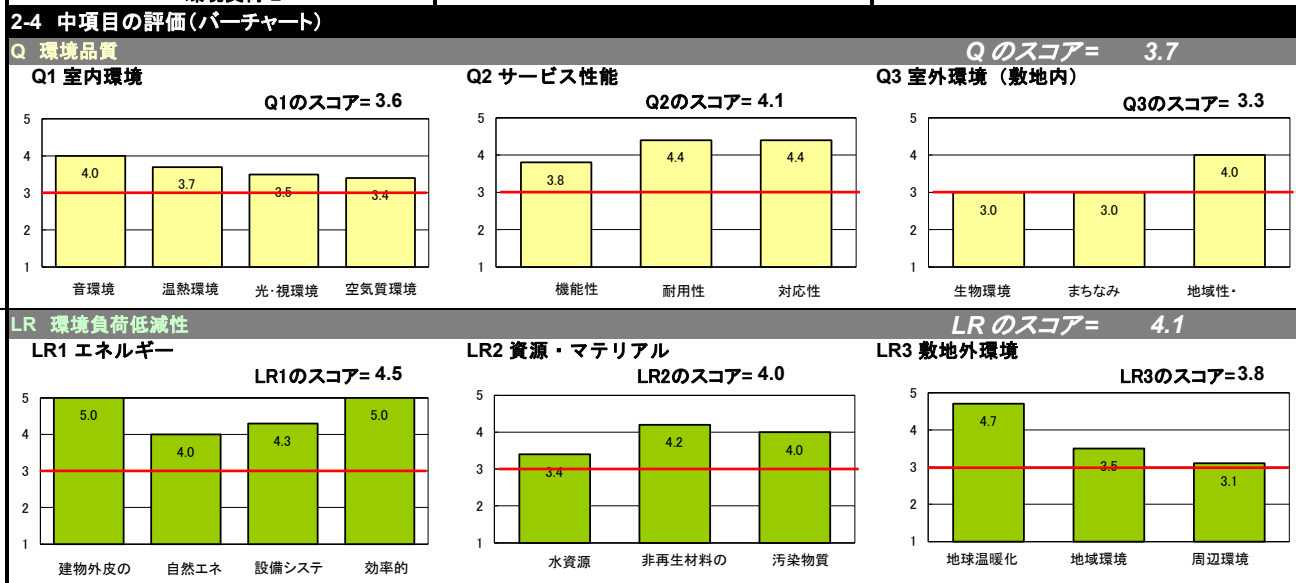
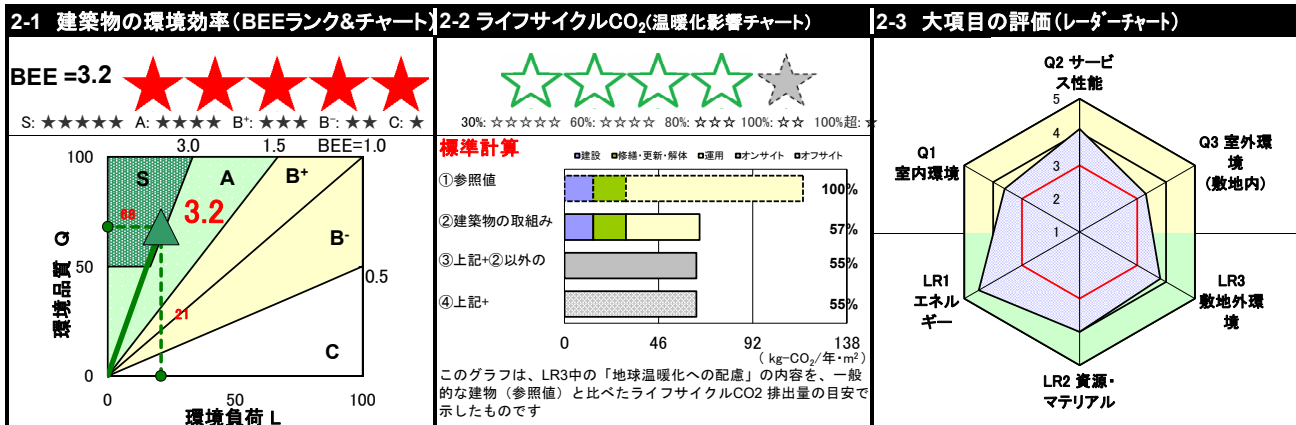
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目		
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	4.0	
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①エアフローウィンドウ採用による温熱環境向上 ②外装ルーバーによる直射日射量の制御 ③外装ルーバーとあわせて電動ブラインドを導入 ④給水B(VLP)、排水B(塩ビ)、消火C(SGP) ⑤主要機器更新20年	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	外皮性能 昼光利用設備 昼光制御 躯体材料の耐用年数 外壁仕上げ材の補修必要間隔 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 空調換気ダクトの更新必要間隔 空調・給排水配管の更新必要間隔 主要設備機器の更新必要間隔	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤緑地を形成	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦南面外装ルーバーおよびエアフローウィンドウ採用と東西面の開口面積抑制による外皮負荷低減 ⑧自然換気および井水熱の空調予冷予熱利用 ⑨潜熱顕熱分離空調による高効率ビルマルを採用 ⑩BEMS導入による高効率運用	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制	
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水器具を採用 ⑫グリーン鋼材を採用 ⑬断熱材に炭化ウレタン、給湯ヒートポンプに自然冷媒を採用	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒	
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
	“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	4.6
		■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯免震特級 ⑰72時間のBCP計画として、発電機・燃料タンク、緊急排水槽、受水槽(上水・雑用水)を計画。外部にマンホールトイレを計画。帰宅困難者待機場所として2階食堂を想定。1階大会議室は工場構内全体の災害対策本部となるため、構内放送マイクを設けたうえ、電源を二重化。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	耐震性 免震・制振性能 空調・換気設備 給排水・衛生設備 電気設備 機械・配管支持方法 通信・情報設備
		“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点
		■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱耐久性のある設備配管・ダクト使用材料 ⑲⑳十分な天井高とリフレッシュスペース ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑地域木材の採用、外光を取り入れる吹抜階段の設置、防犯樹木配置、入居者スタッフの参画	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑	ユニバーサルデザイン計画 階高のゆとり 空間の形状・自由さ 地域性への配慮、快適性の向上
		“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点
	■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1 2 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) ㉖常時は化石燃料を使わない建物(給湯、空調システムに内燃機関の不採用、オール電化厨房の採用)	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善	

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追加版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ヤマハ発動機株式会社コーポレート棟	階数	地上9F
建設地	磐田市西貝塚3405番地の一部 他7F	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,824 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,500 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年1月 予定	評価の実施日	2026年4月22日
敷地面積	9,919 m ²	作成者	吉岡 英一
建築面積	3,472 m ²	確認日	
延床面積	27,068 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		その他
総合 【これはCASBEE静岡（2021年版）による評価結果です。】■建築主が価値創出する「モビリティの楽しさ」「地球との共生」「豊かな人生」と、そのために選定する「リノベーション」「カーボンニュートラル」「安全・安心」に呼応して本建物でもカーボンニュートラルに寄与する建物性能（EB：エネルギー・パフォーマンス）と働く人が安全・安心で豊かな勤務環境のもとで「リノベーション」に寄与する建物性能（NEB：ノン・エネルギー・パフォーマンス）との両立を目標とし、これに寄与する計画とする。		・EBの向上策として「省エネ・ZEB向上への配慮」に寄与する建築設備を計画した。 ・NEBの向上策として「ヘルス・室内環境向上への配慮」「防災・BCPの配慮」「メンテナンス性への配慮」に寄与する建築設備を計画した。
Q1 室内環境 エアフロー・ウィンドウ採用による温熱環境向上 外装ルーバーによる直達日射量の制御 外装ルーバーとあわせて電動ブラインドを導入	Q2 サービス性能 給水VLP排水塩ビ消火SGP/更新20年/免震特級/72時間BCPで発電機・燃料タンク/緊急排水槽/受水槽（上・雑）を計画。外部マニホールド。帰宅困難者待機2階食堂。1階大会議室は災害対策本部とし構内放送を設け電源二重化。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地を形成 地域木材の採用、外光を取り入れる吹抜階段の設置、防犯樹木配置、入居者スタッフの参画
LR1 エネルギー 南面外装ルーバーおよびエアフロー・ウィンドウ採用と東西面の開口面積抑制による外皮負荷低減 自然換気および井水熱の空調予冷予熱利用 潜熱顕熱分離空調による高効率ビルマルを採用 BEMS導入による高効率運用	LR2 資源・マテリアル 節水器具を採用 グリーン鋼材を採用 断熱材に炭化ウレタン、給湯ヒートポンプに自然冷媒を採用	LR3 敷地外環境 常時は化石燃料を使わない建物（給湯、空調システムに内燃機関の不採用、オール電化厨房の採用）

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される